

試験研究成果普及情報

部門	資源管理・増養殖	対象	普及・行政
課題名：九十九里海域におけるチョウセンハマグリ稚貝の出現状況			
<p>[要約] 九十九里地区砂浜域に，2002年の夏以降，9，10月を中心にチョウセンハマグリ稚貝が多く出現し，特に，2005年9月には旭地先において，230個体/m²と極めて高い生息密度を示した。出現した稚貝の大きさは，殻長5～30mmで，年により，また，地区によりモードが異なった。資源の有効利用の観点から，この大量発生した稚貝の保護が重要である。</p>			
キーワード：九十九里，チョウセンハマグリ，稚貝，大量発生			
<p>実施機関名主 査 水産総合研究センター 資源研究室 協力機関 銚子水産事務所，勝浦水産事務所 普及課 実施期間 2004年度～2007年度</p>			

[目的及び背景]

九十九里地区の貝類漁業の主要な対象種であるチョウセンハマグリについて，資源の有効利用を図るためには，毎年の稚貝発生状況を把握しておく必要がある。また，現在，量・質・コスト管理の資源管理型漁業の推進に向け，漁業者自らが検討を進めており，その検討材料としてもこの調査結果が活用されている。

[成果内容]

- 1．2002年6月以降，月1回，旭市及び九十九里町地先でチョウセンハマグリ稚貝の生息状況を調査した結果，夏以降，9，10月を中心に殻長5～30mmの稚貝が高密度で分布していた（図1）。
- 2．この出現の仕方は，これまでの「春先に多く，夏に向け減少していく」という傾向とは異なっている。
- 3．資源の有効利用のため，発生した稚貝の保護を図ることが重要である。

[留意事項]

現在，九十九里貝類漁業者検討会において，広域的な高度資源管理指針作成に取り組んでいる。その中で，九十九里浜の汀線付近で行われている「腰カッター」について，稚貝保護のため操業期間を全域で統一する方向で検討が行われ，これまで，漁協ごとにまちまちであった操業開始時期について5月1日とすることで統一された。さらに，終漁期の統一に向け，この調査で得られた8月以降，制限殻長5cm以上の貝は汀線付近に生息しない，8月以降，3cm以下の稚貝が多く出現するという知見を元に，7月31日で終漁とすることを県として漁業者検討会に提案し，合意された。今後，地域全漁協としての合意形成に向けた取り組みが必要である。

[普及対象地域]

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

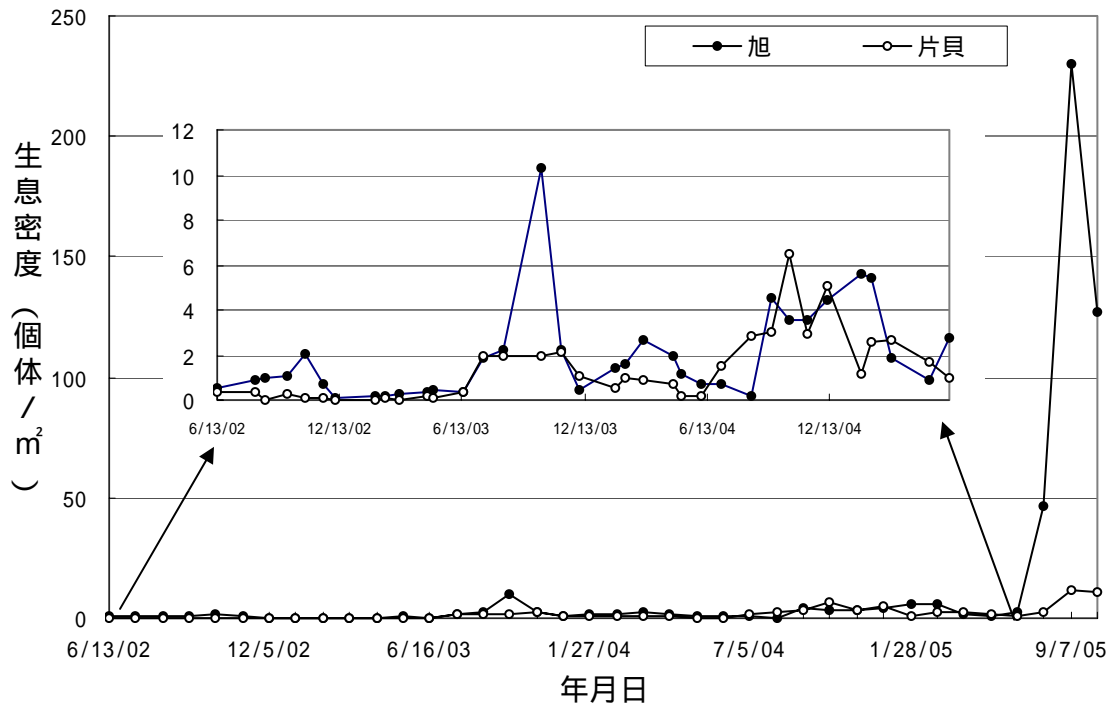


図 1 チョウセンハマグリ稚貝の生息密度の推移

[発表及び関連文献]

千葉県水産総合研究センター研究報告 第1号, 2006年

[その他]

複合的資源管理型漁業促進対策事業 (平成年度)

多元的資源管理型漁業推進事業 (平成～年度)